

各 位

日本農産工業株式会社

平成 21 年 7 ～ 9 月期の畜産配合飼料価格について

畜産配合飼料価格改定額

弊社は、平成 21 年 7 ～ 9 月期の畜産配合飼料価格につきまして、以下の飼料原料情勢等に基づき、平成 21 年 4 ～ 6 月期に比較して、全国全畜種総平均トン当たり約 2,900 円値上げすることを決定致しました。尚、改定額は、地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

飼料原料・外国為替情勢について

1. 原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし 7 月限は 400～450/ブッシェルの推移となっています。長雨により 5 月末まで作付が遅れ、受粉時期が最暑期に重なることによる単収減少、大豆への作付転換、早霜被害の可能性等から、とうもろこし生産量の減少が懸念されています。

需要面からは、世界経済低迷等を背景にした畜産相場下落により米国内飼料需要は減少する見込みですが、エタノール及び輸出向けが増加する見通しで、来年度の期末在庫数量は 10 億ブッシェル強に減少して需給逼迫となることが予想されます。

2. 副原料（植物蛋白原料）

南半球の大豆減産、中国の大豆大量買付による米国内の需給逼迫、長雨による作付遅れ等を要因として大豆産品相場は大幅に上昇し、シカゴ定期大豆粕期近限月は \$ 400/ショートトン台の高値となっています。船運賃の上昇もあり、国内大豆粕価格は 4－6 月期間比較大幅に上昇する見込みです。

3. 海上運賃

中国の順調な鉄鉱石輸入を背景に、米国ガルフ/日本間パナマックス級本船の運賃価格は \$ 40/トン台から \$ 60/トン台へと急激な上昇を見せています。今後、新造船の投入が多いことから一方的な相場上昇にはならないとの観測もありますが、上海万博・整備新幹線等による中国の輸入増加、世界経済の景気回復からの荷動き増加等から相場上昇が懸念されます。

4. 外国為替

米国政府の大量のドル資金供与はドルの価値を押し下げる要因ですが、米国金融への信用回復となればドルを買う動きが強まります。こうした状況下、ドル円相場は 96～100 円の推移にあります。